

2010(平成 22)年度私立大学図書館協会西地区部会東海地区協議会  
第 1 回研究会グループ討議 議事録 Aグループ

日 時：平成 22 年 7 月 2 日(金) 15:30～16:30

会 場：愛知学院大学

テ ー マ：「サイエンスカフェを自身の図書館で開く場合の  
課題（障害）となるものを挙げ、その解決方法を考える」

出 席 者：11 名

参加大学：愛知大学、愛知学院大学、愛知県立大学、愛知東邦大学、岐阜女子大学、  
東海学園大学、名古屋産業大学、名古屋女子大学  
(運営委員校：中京大学、中部大学、名古屋学院大学)

### 【概 要】

はじめに、自館でサイエンスカフェを開く場合の問題点と解決方法を各自で検討した。その後、自己紹介をしながらその内容について発表し合い、問題点を共有化し、解決方法を全員で討議した。

### 【討議メモ】

#### ●サイエンスカフェを開催する際の問題点

- ・学生のスケジュールが過密化しており集客がむずかしい。
- ・図書館はどこも飲食禁止であり、飲み物を飲みながら気軽に集まることができるスペースがない。
- ・図書館外の場所での開催は、図書館の資料と結び付けることがむずかしい。
- ・参加者がディスカッションまで到達するのか心配である。
- ・ターゲットを一般利用者にするのか、学生なのかを明確にする必要がある。
- ・図書館の集客のための開催か地域貢献なのか、開催する目的を明確にしなければ学内の了解を得ること、予算の確保がむずかしい。
- ・テーマはサイエンスにこだわらなくてもよいのではないか。

#### ●解決方法

- ・図書館内でサイエンスカフェのようなイベントを開催するには、ラーニングコモンズのようなスペースづくりが今後必要となってくる。
- ・サイエンスにこだわらず、各図書館の利用者ニーズにあわせたテーマで開催すればよい。
- ・目的によっては、地域との共同開催や、一般向けに開催する方向もある。
- ・講師等は、学内の教員に依頼するなど工夫すればよい。
- ・就職や、地域連携を扱う部署と連携して開催するのもよいのではないか。

## 【まとめ】

サイエンスカフェに限定すると、人文系図書館では議論を進めにくい。そこで、テーマを広げ、「図書館を利用しない学生に参加してもらえるような企画にはどのようなものがあるのか」という点で議論し、次のような意見がでた。

- ・パワーポイントの使い方などパソコンに関するもの
- ・大学院生に依頼してレポート・論文の書き方を教える
- ・大学生の常識シリーズ（例：初学者のための政治経済など）

利用者のニーズにあったものであれば、参加者を得ることができ、今後の図書館利用にもつながるのではないか。

以上

2010(平成 22)年度私立大学図書館協会西地区部会東海地区協議会  
第 1 回研究会グループ討議 議事録 B グループ

日 時：平成 22 年 7 月 2 日(金) 15:30～16:30

会 場：愛知学院大学

テ ー マ：「サイエンスカフェを自身の図書館で開く場合の課題（障害）と  
なるものを挙げ、その解決方法を考える」

出 席 者：10 名

参加大学：愛知工業大学附属図書館、皇學館大学附属図書館、南山大学図書館、名古屋市  
立大学総合情報センター山の畑分館、朝日大学図書館、愛知学院大学図書館情報センター、  
東海学院大学・東海学院大学短期大学部附属図書館、人間環境大学附属図書館、名古屋女  
子大学学術情報センター、名古屋外国語大学・名古屋学芸大学図書館

(グループ別参加者名簿順)

【概要】

各大学で「サイエンスカフェ」を実施する場合の問題点を挙げ、多く挙げられた問題点  
について検討した。

【討議メモ】

●自身の大学で「サイエンスカフェ」を開催する場合

<人文系の大学>

- ・ ターゲットをどのように絞り込むのか。
- ・ いかに学生の興味を引く内容にするか。
- ・ 講師を外部から呼ぶのは、予算的に困難。

<理系の大学>

- ・ 教員の研究内容をテーマにして教員を講師とすることが可能。

●対象

- ・ 図書館主体で開催する場合は、学生を対象としたほうがよい。
- ・ 学外者(一般利用者)を対象とする場合は、他部署との連携が不可欠。
- ・ オープンキャンパス等学外者が多いときに実施するのも効果的と思われる。

●場所

- ・ 図書館内または側の施設で実施できれば、「サイエンスカフェ」後に図書館の利用につ  
なげることが可能。
- ・ 大学外のカフェで開催している大学は、参考資料リストなどを配布したが利用にはあま  
りつながらなかった。

- ・ 図書館内は飲食禁止であるため、飲食可能とする「カフェ」は図書館内での実施は困難である。

#### 【まとめ】

「サイエンスカフェ」を開催するための重要なポイントはテーマの選定である。いかにタイムリーな内容をタイミングよく企画するかが鍵となる。また「サイエンスカフェ」を開催するためには、ターゲットの絞込みや図書館員のマンパワー、予算や実施場所など個々の大学によって問題がある。結果大学図書館内での「サイエンスカフェ」の開催は困難であるとの結論となった。

以上

2010(平成 22)年度私立大学図書館協会西地区部会東海地区協議会  
第 1 回研究会グループ討議 議事録 C グループ

日 時：平成 22 年 7 月 2 日(金) 15:30～16:30

会 場：愛知学院大学

テ ー マ：「サイエンスカフェを自身の図書館で開く場合の課題（障害）と  
なるものを挙げ、その解決方法を考える」

出 席 者：10 名

参加大学：愛知淑徳大学、中京大学、豊田工業大学、名古屋学院大学、日本福祉大学、愛知学院大学、金城学院大学（発表者）、至学館大学、愛知工業大学（記録）、南山大学（司会）

【概要】

- ・自己紹介を行った。
- ・講演の感想を話しあった。
- ・内容を絞り、課題・問題点を討議した。（講師 大久保さんを交えてご意見を伺った）

【討議メモ】

●場所

- ・館内は飲食禁止であるため、「カフェ」の実施は困難。（大久保さん：飲食が主目的ではないため、なくてもよい）
- ・図書館以外で開催したらいかに図書館の利用につながるか。資料等の展示で認知させることも可能。

●マンパワー

- ・人員不足。
- ・企画力が図書館職員にあるか。
- ・教員を講師にお願いすることが可能。

●テーマ

- ・サイエンス分野以外のテーマを扱う文学カフェ、読書会カフェ、ライブラリカフェでもよいのではないか。

●交通アクセス

- ・交通アクセスが悪いため、開催したとしても集客できるかどうか。
- ・大学祭、オープンキャンパス時に開催できないか。

●予算

- ・予算の確保が難しい。教材費・お茶代をどうするのか。（大久保さん：実費でクリアできるのでは）
- ・講師を外部から呼ぶのは予算的に難しい。

●対象

- ・学生、地域対象にするのか。
- ・大学祭、オープンキャンパスに開催して地域、高校生、父母も対象にすることが可能。

【まとめ】

講演者が紹介したチラシ作成のテクニックは、入試・広報等にも活用できる具体的なもので、参考になると同時に PR 媒体としてのチラシの重要性を感じた。

サイエンス・カフェを実現する上で問題となる障害は、工夫をこらすことで解決できる場合があるのではないか（例：マンパワーの不足を学生ボランティアやスタッフの追加出勤等で補う、お茶代、教材を実費徴収することで運営費用をまかなう、場所は館内にこだわらずに飲食可能な学内のカフェや図書館のラウンジ等を活用する、交通アクセス面での不利を魅力的な企画内容や抱き合わせ企画（大学祭、オープンキャンパス、ランチタイム等に開催する）でカバーする等）。

カフェそのもののテーマもサイエンスにこだわらなければ、さらに交流の可能性や場が広がる（読書会カフェ、文学カフェ、ライブラリカフェ等）。

さらに企画の魅力を増すためには、内容を学生に興味あるものにする、図書館だけでなく全学的な協力を求めること、職員の企画力を高めることが重要である。

以上

2010(平成 22)年度私立大学図書館協会西地区部会東海地区協議会  
第 1 回研究会グループ討議 議事録 D グループ

日 時：平成 22 年 7 月 2 日(金) 15:30～16:30

会 場：愛知学院大学

テ ー マ：「サイエンスカフェを自身の図書館で開く場合の課題（障害）と  
なるものを挙げ、その解決方法を考える。」

出 席 者：11 名

参加大学： 岐阜聖徳学園大学(岐阜キャンパス)、東海学園大学、名古屋経済大学  
名城大学（2 名）、愛知大学(豊橋)、愛知工業大学、大同大学、豊田工業大学  
名古屋外国語大学・名古屋学芸大学、愛知淑徳大学

【概要】

各自自己紹介と講演の感想を述べてもらう。その後テーマについて討議。討議する中で、こういった企画を行う際の各大学悩み、それに応じて各大学での取り組みについても発言がなされた。終盤、講師の大久保先生がみえたので、質問等して参考意見などいただく。全体討議に向けてグループとしての意見をまとめ、終了。

【討議メモ】（\*以下講演の感想も含む）

- 図書館は大学に於いて情報発信の元となる部署であると自覚し、情報発信力のスキルを磨くことが大切であると感じた。
- 生きている情報の必要性——死んだ図書館ではなく、生きている図書館を目指さなくてはいけないと思った。
- 研究会に参加するに当たって、サイエンスカフェ自体を初めて知った。理系の学部はないし、自分の大学では無理かとも思っていたが、講演を聴いていけるかとも思った。
- 広報の大切さを痛感した。
- 自分達にやる気があっても、いかに上層部を説得するか。あるいは、いかにみんなの気持ちを一つにするか。利用者との距離があるスタッフいる等々--図書館内のスタッフの温度差をなくさないといけない。
- 理系の大学なので、こういったものを開く時間がない。
- あわせて軟らかめの図書の紹介もして PR したいが、選書基準から外れて入れてもらえそうにない。
- “静かな場所”“飲食禁止”といった大学図書館のイメージから外れるので、なかなか賛同が得られないと思われる。
- なぜ図書館で“サイエンスカフェ”なのかを、どう周りに納得させていけばいいか。
- エクステンションセンター（公開講座）などと連携したり、オープンキャンパス、

大学祭など大学のイベントに乗っかると開催しやすいかもしれない。

- 図書館外にも積極的に広報する。(例：食堂に紙で作成した三角形の案内版を置かせてもらったら結構見てもらえた。)
- 色々な立場の人の意見を聞いたり、学生を巻き込むことによって、協力してもらえ体制を作り上げる。
- 自分たちに“やる”という強い意志がないと前に進んでいかない。(例：何かイベントを開催したいということで大学上層部にイベント費を予算申請したら、通った。)

#### 【まとめ】

図書館で企画を立案し、開催するにあたって、様々な障害を乗り越えていくために必要なのは、結局は図書館自体、すなわち自分達の熱意と企画力が重要である。それに加えて学内他部署との連携・協力が得られればなおよい。それが利用者にも伝わることにより、利用者の関心の高さや大きなアクションが得られる。こういった利用者からの反応が次のモチベーションへとつながっていくのではないか。企画力に関しては、我々スタッフ各自が日頃の感覚を磨き、日々情報に対してアンテナを張っておくことが必要である——という結論に達した。

以上